

4 明学レッドクロス(日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ)

職員総括

2018年度は、春学期開始直前にチーフが諸事情で辞め、新3年生メンバーも1名になる事態が起こり、セクション存続が危ぶまれる出だしとなった。

しかし、4月の新入生勧誘時に、残り1名となった3年生と引退した4年生の応援もあり、1年生5名、3年生1名の加入があった。新メンバー加入にともない、白金・横浜と校舎が離れているためにできる溝を埋めるべく早い時期に懇親会を行い、1年生から3年生までの交流を通じメンバー1人1人を知る良い機会となった。また、今年度メンバーになった1年生は、ボランティアセンター主催「1 Day for Others プログラム」の日本赤十字社神奈川県支部「救命救急講習」に参加し、日本赤十字社の活動概要も学ぶことができた。

2017年度のように、自分たちが一から新しい企画を打ち出すことはできなかったが、年2回の白金キャンパスでの献血呼びかけ(4月・10月)、全国赤十字大会受付ボランティア(5月)、防災炊き出し訓練(10月)、横浜図書館展示(12月)と毎年行う活動を継続することができ、また日本赤十字社との協働であるRCV(赤十字社情報誌)編集委員会へ委員として3名を送り、第70号～第72号の発行に携わることができた。12月の横浜図書館展示では、これまで秋学期に入ってから本を選んでいたので、その紹介ポップ書きが遅くなりがちであったが、今年は夏休み中に本が読めるよう準備時期を早めた。メンバーが書いたポップを見て、選定した本を借りてくれた学生が3名もいたことから、この活動が実を結んだことを実感できた。

残念であったのは、2016年に中国紅十字会香港支部ユースとの交流で始まった協働プロジェクト(スマイルチルドレンプロジェクト)で「子どもたちの貧困」をテーマにそれぞれの国で行動を起こし、日本ではNPO法人「キッズドア」と組んで、生活困窮家庭の子どもたちに学習支援を行っていたが、現メンバーがこれに関われなかったことである。引退した4年生2名が継続して活動し、後輩たちが引き継いでくれることを望んでいたが、学習支援を行う場所が東京都内に限られていることから、横浜キャンパスで5時限目まで授業があると参加が難しいことが課題としてあり、今後日本赤十字社担当者と考えていく必要がある。

(職員 北野順子)

●2018年度「明学レッドクロス」の主な活動

日にち	内容(参加人数)
4/27(金)	学内献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動(2名、職員1名)
5/16(水)	「平成30年全国赤十字大会」ボランティア参加(1名)
6/16(土)	日本赤十字社神奈川県支部にて「救急法基礎講習」受講(1 Day for Others 協働プログラム)(12名(内、セクションメンバー5名)、職員1名)
8/9(木)	東京都赤十字血液センター見学会(6名、職員1名)
10/15(月)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.70』完成(2名) Contents:平成30年7月豪雨災害 特集1:災害ボランティアセンターって何?

	特集2：若さと汗が光る！熊本の熱き奉仕団 http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/181019_005474.html
10/21 (日)	港区高松地区の「防災炊き出し訓練」に参加 (1名、職員1名)
10/26 (金)	学内献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動 (2名、職員1名)
12/10 (月)～12/21 (金)	横浜図書館展示 (9名) テーマ：戦争と子どもたち
1/18 (金)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.71』完成 (3名) Contents：つながる&つづける 特集1：つながろう！「新たな支え合い」を目指して 特集2：私のボランティアの履歴書 http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/190122_005578.html
《その他通年活動 (日本赤十字社のプロジェクトに参加)》	
4月～3月	「スマイルチルドレンプロジェクト」メンバーとして活動 (2名)

◇スマイルチルドレンプロジェクト

目的	子どもの貧困へ理解を深め、子どもたちへ学習支援を行う
場所	NPO 法人キッズドアの学習会、日本赤十字社本社 (港区)
活動内容	中高生への教育支援
活動日時、参加人数	毎月1回 18:30～21:00 3～4名 (他大学生を含む)

実施概要

私が参加するスマイルチルドレンプロジェクトでは貧困状態にある子どもたちへの学習支援を行っている。現在は明学レッドクロスの学生の他、他大学の学生を含めた約10名がこのプロジェクトに参加しており、赤十字のユースメンバーとして「NPO 法人キッズドア」の学習会へ参加している。

主な活動としては個別学習会での中高生への指導、英語を使ったゲームを企画・実施する「English Drive」での中高生との交流がある。また定期的に日赤本社でのミーティングを通し、日々の学習支援の活動報告や香港の赤十字ユースとの協働の意義についても話し合うことで、子どもの貧困への理解を深めている。

感想・活動を通して得た学び

この活動を通して学んだことは、学習支援は単に勉強への理解を深めることや知識を教えること以上に子どもたちの気持ちに寄り添い、学習を進めていくことが重要だということである。私が主に担当していたのは中学1年生の子であったが、学習中に落ち着きのなさが度々見られた。そのようなときに自分が中学生の時のことを思い出し、その子の好きな分野の話をしたり得意なものをほめて伸ばすよう心掛けたことで、楽しく学習を進められるようになり、私も充実感を得ることができた。

今後に向けて

赤十字のユースとしてこれらの学習会にこれまで以上に積極的に参加・参画していくため、この活動に参加するメンバーの募集や他大学の学生メンバーとの協力を心掛けていきたい。それと同時にこのプ

プロジェクトは中国紅十字会香港支部との協働であるため、香港のユースボランティアとも連携を深めていきたい。また、赤十字のボランティア活動は献血や災害支援のイメージが強いが、このような学習支援を行っていることをさまざまな人に知ってもらえるよう、広報活動に力を入れていきたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇平成 30 年全国赤十字大会

目的	全国赤十字大会の運営スタッフとしてボランティア参加
場所	明治神宮会館（渋谷区）
活動内容	来賓の方への式典用リボン付けの補助、受付、会場案内や資料配付
活動日時、 参加人数	2018年5月16日（水）8：00～13：40 1名

実施概要

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下も出席される大きな大会で、当日の受付・会場案内や資料配付など、運営スタッフとして参加した。主に担当したのは入口にて来賓の方への式典用リボン付けであった。終了した後は会場に入り、プロローグとして「赤十字この一年」の上映が行われ、第1部として日本赤十字社から有功章の授与があり、その後フローレンス・ナイチンゲール記章を受章された伊藤明子さんと青少年赤十字メンバーの小林正英さんの実践活動の報告を聞いた。第2部アトラクションでは歌手の岩崎宏美さんとピアニストの国府弘子さんによるコンサートを鑑賞した。

感想・活動を通して得た学び

一人での参加ということでも緊張していたが、受付をともに担当した運営スタッフの方にどうすればよいかを聞き、それに対し優しく教えていただき、緊張もほぐれ、任された業務を遂行することができた。来賓の方に式典用リボンを付けるということで、どのような方たちがいらっしゃるのか他のスタッフの方に聞き、来賓の方とのコミュニケーションを取りながら、続々といらっしゃる方たちに手際よくリボンを付けていくことができた。その経験から初めてお会いする方々とコミュニケーションを取って連携しながら何かを行うことの大切さを学ぶことができた。

今後に向けて

明学レッドクロスに所属している中で、日本赤十字社を前面に感じる事があまり多くはないと感じていたが、今回全国赤十字大会に運営スタッフとして参加し、日本赤十字社が行っている活動について全国から参加している支部の方たちのお話や表彰された方の活動報告を聞いて、これを生かすことができたらと今後に向けて意欲が湧いた。またボランティア活動をする際に、まったく見ず知らずの土地で活動するにあたり、そこで出会う人たちとの交流の大切さを心に留めて活動をしていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

◇東京都赤十字血液センター見学

目的	献血についての知識を深める
場所	東京都赤十字血液センター（新宿区）
活動内容	東京都赤十字血液センターの業務概要の説明を聞き、献血された血液が病院に運ばれるまでの工程を学ぶ
活動日時、 参加人数	2018年8月9日（木）13：30～16：30 6名、職員1名

実施概要

明学レッドクロスの活動の中に、献血の呼びかけが含まれている。私たち1年生の中にはこの活動に興味を持って入った者もいる。しかし、「献血」と言われて私たちが想像できるのは「血を採る」ということくらいで、あまり知らないのが現実であった。周りに献血の呼びかけを行う前に、まずは自分たちが献血について学ぶ必要がある。そこで、献血に関する見聞を広めるため東京都赤十字血液センターを訪れ、血液センターの業務概要説明を聞き、施設内の見学をさせていただいた。



感想・活動を通して得た学び

献血を何度かしたことがあったが、自分の血液がどこにどうやって運ばれていくのか、運ばれた後どうなるのかまったく知らないうえに、考えたこともなかった。今回の見学を通して、採取された血液が病院に運ばれる前にさまざまな作業や検査が行われていることを詳しく知ることができた。特に驚いたのは血液の保存可能な期間だ。赤血球や血漿、血小板、全血など種類によって異なるものの、最も短いもので4日しか持たないということである。このように、実際に自分の目で見て献血について知識を深められたことは、とても貴重な経験になった。

今後に向けて

実際に見たり体験したりすることで自分たちの知識を深めることはできたが、そこでとどめては意味がない。得た情報を周りに伝えてより多くの人に知ってもらうことが肝心である。私たちが初め献血についてほとんど知識がなかったように、大学内でも知らない人が多いのではないかと思う。一人でも多くの人に献血に興味を持ってもらえるよう、今回学んだことを私たちが積極的に広めていきたいと思う。

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇港区高松地区防災炊き出し訓練

目的	防災炊き出し訓練を通して地域の防災意識を高める
場所	港区立高松中学校
活動内容	豚汁、非常食アルファ米（五目飯）を400食作り、同所で開催された“スポーカルまつり”参加者に配付
活動日時、 参加人数	2018年10月21日（日）9：00～13：30 1名、職員1名

実施概要

昨年に引き続き、今年も港区高松地区主催の防災炊き出し訓練が高松中学校で開催された。今年も、中学校で行われたスポーツフェスティバルと同時開催だった。中学校のピロティを利用し、地域の皆さんと一緒に400食の五目飯と豚汁を作った。実際作業を始めると、使用予定だったお玉の長さが足りず、トングとお玉を養生テープでつなげ長さを伸ばして使うなど、予想外なことが起きた。また、今年は災害が多かったこともあり参加者の意識が高かった。



感想・活動を通しての学び

地域の方は昨年も参加しており、準備がすべて揃った状態での実施だったため、作業がスムーズに進行したと感じた。しかし、実施概要で述べたように、お玉の長さが足りない、他にも、ガスコンロとお鍋の大きさが合わない、換気が悪く作業場がガスの臭いで充満する、今回用意した数が400食だったため、水の量が多く、火が通るのにかなりの時間が必要だったなど、実際参加してみて気づきが多々あった。

今後に向けて

災害はいつどこで起こるのか誰もわからない。私たちができることは、予想し、経験を重ねることである。今回参加して、何事も予想通りには物事が動かないと感じた。実際災害が起きたら水不足になるかもしれない、ガスや電気が通らないかもしれない、訓練時よりも最悪なコンディションになるだろう。そのような中で自分はどのように動けるのか、動くためには日々の訓練が大事である。今年は、日程が合わず、明学レッドクロスからは学生が1名しか参加できなかったが、今後はもっと積極的に取り組んでいきたい。

(学生メンバー 文学部英文学科)

◇ 『RCV』(赤十字ボランティア情報誌) 編集委員

目的	日本赤十字社ボランティア情報誌の作成
活動期間	2018年6月～2019年3月
参加人数	3名

実施概要

日本赤十字社の発行する情報誌『RCV』の作成に携わった。今まで70号、71号の発行に携わったが、そのうちの71号では大阪に出張し、災害ボランティアでの課題などを中心にインタビューしてきた。日本赤十字社大阪府支部と協力し取材を行い、その後インタビュー形式の記事を作成した。

感想・活動を通じての学び

今まで雑誌の作成などしたことがなく、そのうえインタビューの経験などもなかったため、大阪に出張に行くとなった時は非常に不安であったが、チームで話し合い、しっかりと分担を決めたおかげでスムーズに取材活動を行うことができた。また、インタビューだけでなく写真の撮影も行ったため、どのように写真を撮れば読者にとってわかりやすい記事になるのかということを考えながら撮影を行った。そして、編集作業を通じて今まで知らなかったボランティアの現状につ



いても知る事ができた。特殊な技能を使ってボランティアをしている方や、普段は大工として働きながら災害時の屋根瓦の修理の仕方の講演会を行っている方など、さまざまなボランティア活動があることを知ってもらい、多くの人にボランティアについて興味を持ってもらいたいと思った。

今後に向けて

今後は、編集委員という立場ではなくなっても、さまざまなボランティア活動に興味を持つことは忘れずにいたいと思う。ボランティア活動というものは決して敷居の高いことではなく、些細なことでもボランティアになり得るということを伝えていけるような人になりたいと思っている。

(学生メンバー 法学部法律学科)

